

# 名月 浅所海岸照らす



平内町と青森大学、青い森鉄道が連携し、「若者ネットワークづくり」事業の一環として企画した、初の「ひらないのお月見」が、中秋の名月の9月27日夕、浅所海岸と旧浅所小学校で開かれました。

「浅所海岸をお月見の名所に」を合言葉に開かれたお月見には、町内や青森市、東北町、弘前市、さらに岩手県などから40人ほどが参加し、台湾やモンゴルから青森大学に留学中の学生たちも駆けつけました。午後5時半すぎ、あかね色の雲間から丸い月が顔を出すと、「ほおー」という歓声上がり、刻々と暗さを増す夜空を昇っていくまばゆい月の姿に、参加者らはカメラやスマートフォンを構えながら見入っていました。



会場横の松島渡橋はミニ・ランタンでライトアップされて幻想的なムードに。お月見の様子はスタッフや参加者がネットで県内外に広く伝え、タイムラプス（静止画から作成した動画）をツイッターからアップする人も。ライトを使って「夜空に文字を書く」レクリエーションも行われ、会場は和やかな空気に包まれました。

お月見の後は旧浅所小学校に会場を移して青森大学の清川繁人学長補佐が講話し「地元の魅力にもっと目を向けよう」と呼びかけました。催しの様子は青森放送ニュースや青い森鉄道のブログでも報じられました。

## 県内外の参加者魅了

## 若者ネットワークづくり「お月見」イベント

平内町×青森大学×青い森鉄道  
ニューズレター

●編集・発行  
青森大学地域貢献センター  
●連絡先  
青森市幸畑2丁目3の1  
●電話  
017(738)2001



Facebook「青森のおへそから～私の平内、あなたの平内」のページと「お月見」イベントはこちら！（カラー版をネットでご覧いただけます）



お月見



青森のおへそから

## 四季通じた魅力に目を



### 清川学長補佐の講演

平内町は陸奥湾に突き出た夏泊半島をはじめ、ハクチョウで有名な浅所海岸や町の南側に連なる山々など風光明媚なスポットが点在し、四季を通じて楽しむことができます。しかしながら観光やレジャー目的で町外から訪れる人の数は決して多いとはいえず、観光シーズンも特定の時期に限定されていました。

被写体を求めて町内を散策すると、例えば夏泊半島周辺では、春先になると青森県内で最も早くカタクリやフクジュソウが咲き乱れ、春の訪れ

を実感できることでしょう。その後5～6月には数百頭のイルカの群れが回遊する姿に、子供も大人も歓声を上げることも間違いありません。夏の海水浴に続いて秋のお月見や星空観察、サイクリングなど、長いシーズン観光的に魅力ある資源が眠っているのです。

それらを発掘し、さらに受け入れ態勢を整備することにより、町外からたくさんの人がやってくる可能性を秘めています。

（青森大学学長補佐・清川繁人）

### 光で文字を描く留学生たち



#### <「光の文字」の書き方>

カメラを三脚に固定し、露出を「マニュアル」モードにして、露出時間を15秒、絞りを「11」、ISO感度を「100」ぐらいに設定します。ペンライトなどを用意し、シャッターを切った後で文字を書きます。リハーサルを忘れずに…！



### 参加者の声

▼平内の豊かな自然の中でのお月見。想像以上に素晴らしかったです。家族も大満足でした（青森市・男性）▼お月見に良い場所は県内では太平洋側かと思っておりましたが、陸奥湾から昇る月はとてもきれいでした。まさにここはお月見の名所にふさわしいと思いました。団子もあると良かったカモ（東北町・男性）▼とてもすてきなロケーションの中で名月を見ることができて有意義な時間でした。暗くなる前の昇りたての月もいいと思います（弘前市・男性）▼海外で月見することは初めてです。台湾はこの活動もあるけれど、本当にうれしいです（青森大学留学生）▼平内で月を見ると、外の寒さを忘れるほど、とてもきれいでした（女性）

あそびの平内 私の平内



平内町で10月11日、サイクリングやジョギング、ウォーキングで夏泊半島を回る「第2回 夏泊半島ブルーロードライド」が開催された。その様子を取材した。

県内外から総勢60人が参加し、夏泊半島の景色を眺めながらゴールを目指した。参加者には年配の方も多く、サイクリングには小学生や女性なども参加していた。

サイクリングのスタート地点は夜越山、ジョギングのスタート地点は浅所で、参加者は途中のエイドステーションでの食事や景色を楽しみながらゴールの大島へと向かった。

1カ所目のエイドステーションでは「久慈良餅」が約150食用意されていた。2カ所目は100個以上のトマ



トが、3カ所目ではバナナとマスカットがふるまわれた。

青森市からサイクリングに参加した江利山元気さん（35）はこのイベントについて「初心者でも皆とワイワイ楽しめる。大島でホタテを食べるのが楽しみ」と語った。また、函館市から参加した高橋俊介さん

（50）＝写真左上＝は久慈良餅を手に「普段、車からでは見ることのできない町や自然の風景を楽しみながら楽しく走れることが、このイベントの魅力だ」と強調した。

ゴールの大島では焼きホタテやバラ焼き、チヂミなどのテントが並び、参加者を楽しませた。

（青森大学社会学部4年・斎藤健太）



第2回夏泊半島ブルーロードライド盛況

青森大学生が見た平内



10月11日に第2回夏泊半島ブルーロードライドを取材に行った時、一面に広がる海とたくさんの漁船が水平線に見えた＝写真。青森市などでは見られない光景だ。平内町は海のすぐ横を道路が走る。青森市にはあまりそのような道路がない。

サイクリングやジョギングの人たちから見て、右側には一面海が、左側には山があった。このようにずっと、一度に山と海の景色を見られる場所は、県内でもそう多くはないのでは。ソーシャルメディアなどを使い、もっとPRすべきだと思う。

「ひらないのお月見」もきれいだったが、私は運動しながら自然を眺める方が良いかなと感じた。参加者は高齢者も多い。そういえば、お月見の時も釣りをしている高齢者の方がいた。平内町民はアウトドアが好きなのは？ みんなでワイワイ楽しく運動してみてもよいのでは。そう思った。

（青森大学社会学部4年・斎藤健太）

水平線埋める漁船に感銘 みんなでワイワイ運動を

<取材・制作>

斎藤健太・阿部康平・杉田拓哉・木村和也・坂本風磨・堀内裕人（青森大学・地域貢献プランニング履修者）



平内のソウルフード 手羽先から揚げ（肉の町田）

9月27日の「ひらないのお月見」当日、青森大学の学生3人が会場に向かって、大学の先生の車に乗って移動していた。移動の途中、小腹がすいたので何か食べるものはないかと探していたところ、あるお店が目に入った。それが「肉の町田」だった。

ここ「肉の町田」では、普通のスーパーのように日用雑貨やお菓子などが売られている。そして奥にはコロッケ、カツなどのおいしいそうな惣菜も並んでいる。その上でひときわ目を引くのが手羽先から揚げ。この手羽先は、平内でも好んで食べられる、いわゆるソウルフードのようなもので、多くの人に愛されているという。私も食べてみたが、大変に味わい深く、おいしかった。

（青森大学社会学部2年・坂本風磨）

